

第9回総合計画策定幹事会概要

日	時	平成21年1月30日(金) 午前9時～午前11時30分	
会	場	行政委員会室	
出	席	者	勇幹事長、筒井幹事、加藤幹事、岨中幹事、平井幹事、山本勝彦幹事、進藤幹事、田内幹事、林幹事、入江幹事、守岡幹事、浅見幹事、中村好明幹事

【議事】

1 草津市の現況課題と基本構想（草案）について

事務局から説明。

《意見等》

・時代潮流の「地域経済と都市間連携」の「都市間連携のもとで都市構造を合理的なものに再構築するとともに」とあるが、表現が分かりづらい。都市間でお互い補完し連携し合いながら、というのは、草津市としてそれをどうしていくということか。

→経済産業省の報告書に地域の経済をどこまでみるのかという所もある。草津だけでは地域経済はできていない。湖南4市で連携して、できるかどうかは別として地域で一つというような連携をしていかなければ、これからの地域経済は成り立っていかないという意味合いで表現したものである。それを言葉にしてわかりにくくなってしまっている。

課題としては、資料の「地域経営への転換を」で表現をしている。地域経営の視点だが、なかなか一般の都市構造まではできない。近隣都市とこれまで以上に連携をするというキーワードであったり、それを受けて課題の中に連携というものを入れさせてもらった。都市間連携を第一に潮流も受けながら課題にも入れているということだ。

・時代の潮流では、「家族規模の縮小や“孤族化”などによって～深刻なものとなってきます」として家族規模の縮小（核家族化）と孤族化を住み分けしている。一方、主要な課題の中では「子育て期にある世帯の転入が進む中で、核家族化や就労形態の多様化などとあいまって」と表現している。「あいまって」という表現に違和感がある。転入が増えてきて核家族化になりそれぞれ子育て期のお母さんが相談する人もなく孤立化していった子育ての支援も求められているのとあいまってという表現になる。今の就労形態も夫婦で勤めていなくても子育ての支援が求められている。

→時代の潮流の方は子育て期も高齢期というのも含めて入れさせてもらっている。1人世帯の家族になったり家族が孤立していく孤族化で子育て期や高齢期の生活課題が非常に深刻だということで、子育てと高齢期に向けた言葉になっている。資料の「子育て・子育ての応援と高齢期にある人の社会参加を」では、子育て期という前提で草津で考えた場合、子育て期世代の転入が増えているのは事実。単純に増えているだけでなく就労形態も多様化ということもあいまって非常に子育ての支援のニーズが急増しているということで書いている。潮流の方は、子育て期と高齢期の生活課題。こちらは子育て期の課題ということである。

転入が増えているだけでなく、就労形態が夫婦共働きであったり核家族化であったり混ざり合っている草津市のイメージを持った。子育て期にある転入世帯で核家族化や就労形態の多様化があるからという方が分かりやすいということか。「あいまって」という言葉は、混ざり合っている複雑化するという思いを入れたものであるが、整理する。

・「孤族化」という言葉は分かりにくい。わかりやすい表現に変えた方が良い。

・主要な課題の子育てのところで「団塊の世代が高齢期を迎えたことで、医療や介護等に要する社会負担が従来より大きくなると推測されるため、健康増進と介護予防」高齢期を団塊を迎えるという課題に対し健康増進・介護予防が重要となっている。この通りと考えるが、次の文章「限りある医療・福祉等の社会資源を有効に活用していくことが求められます」とあるが結びつかない気がする。子育ての方にも社会資源をもっと活用してほしいと思う。

→わかりにくいですが、これらの課題というのは、二つの課題ということで書いている。

・主要な課題とは現在の課題か、10年後における課題か。

→現状と10年を見越した課題になる。基本構想でも11年後までの課題になっている。課題が多いという議論もあったが、この10年間で課題解決をしていこうとするものである。

・時代潮流であるが、右肩上がりの時代は終わり、右肩下がり時代に転換している。この潮を前提に課題を解決してやっていくと考えているということか。

→明るい未来というのは、文化を高めることによって草津が誇れるまちになるというような前向きなこともある。また次世代をしっかり育てようということもある。

・地域の特性で琵琶湖から旧草津川と表現されているが、山手側の山寺や馬場の山裾の部分、イオロ山など残された自然をどう見ているのか。自然の保護と活用の部分が抜けていないか。

→これについては、議論があった。ムレ山、イオロ山は書いてあったが、審議会のときにイオロ山がどこにあるのかわからないという経緯があったため、挙げていない。

・芦浦観音寺で舟奉行のことを掲載している。湖上交通の重要性は監視の部分だけなのか。他にもあるのではないか。矢橋湊などほかに活用された部分が抜けている。文化財の視点があるのかどうか。

→明治、大正など矢橋や山田の方が湖上交通として栄えていた時代もある。少し加えたほうが良いかもしれない。

・都市間連携も含めて、農業、農地関係がこれからの課題かと思う。緑を含めた環境を今後どう保全し、この産業を伸ばしていくのか。課題として必要ではないか。

→農業、農地関係については、琵琶湖、農地、山林、旧草津川のより適切な保全と活用というところで表現している。

・将来ビジョン、まちのビジョンの言いまわしが「～います。」となっている理由は。

→草津市の10年後のまちがイメージされるフレーズで表現している。あくまでも将来に描くまちの姿ということで、10年後にはそういうまちになっていますという意味での「います」である。

・10年後の草津市の姿を現していますとはっきり言ったらどうか。

→次のように構想しますというのは、現時点から構想するという。どのようなまちづくりをしていくかは、基本方向にきっちり書いていく予定。各課照会してまとめて行かなければならない。

・自治基本条例について、まちづくりの理念は、基本条例に委ねますというのは、10年計画なのか。自治基本条例のイメージがわからないが、草津市のまちの理念を委ねるような条例なのか。自治基本条例は10年、20年で変わるものではないと思う。まちづくりの仕組みのようなもので総合計画の理念を委ねることができるのか今ひとつわからない。

→まちづくりの理念は今回新たに取るもの。理念は、普遍的なものであり、何を作るにしてもその理念に基づいているということなら基本条例に委ねられると思っている。総合計画でいう理念と自治基本条例でいう理念は少し違い、前段に草津市の理念として自治基本条例があり、これを基本に10年間のまちづくりの理念を作るのが、本来の姿だと思う。総合計画は時代とともに変わるもので、自治基本条例の理念はもっと普遍的で大きいものと考えている。

・自治基本条例が遅れて策定されるということであれば、議会の議決に総合計画の基本構想をかけた時に、根本理念はどうかと、とりあえず基本条例に委ねますとすると、総合計画の理念はどうなるのかということになる。

→総合計画の理念、ビジョンについては、市民会議、懇話会、幹事会等で検討いただいている。これはビジョンに含めた方が分かりやすいのではと考えている。自治基本条例は行政の運営の有り様を定める憲法のようなものだと言われている。自治基本条例に委ねるという部分ではなくて、総合計画の整備をするにあたっては将来ビジョンやまちの姿を書く上で理念とキャッチフレーズを入れていく中で、上手に整理するのが難しいから理論だけで議論するのはあえてやめた方が良くだろうとそういう意味である。

・まちづくりの基本理念は、自治基本条例の中に入れてしまおうということか。

あくまでもまちづくりを進めるための基本の仕組みがあってそこから色んなものが積み上げられる。まちづくりの理念の集大成を自治基本条例にというのはどうかと思う。

・自治基本条例も総合計画の理念も結局は市民の幸せを願うもの。それを様々なステージに分けて考えるだけ。我々の目標も市民の幸せを目標に全てやっており、これに変わりはない。それをどうやって執行するのかと、どう関わっていくのかが条例で、市民の視線できちんと規制しようというのが今日の自治体のあり方である。

→もともと理念に草津らしさは出せないのかという意見が審議会ではあった。理念のように普遍的なものにどうやって草津らしさをだすのか。それで草津らしさの理念といたら何だろうと言ったら、ビジョンと理念の違いはどうかということになってしまった。理念をビジョンに溶け込ませてしまっ整理しようという意見もでた。

・理念を書き表す必要があるのか。体裁だけの話ではないのか。前文で表現できていれば良いのではないか。

→従来から議論を頂いていたが、理念の部分を今回、総合計画の基本構想からは抜いたらどうかということ。その理由はその理念と将来ビジョンの中で言っている将来のまちの姿あるいは、基本の方向性が議論の中で三つとも似たようなものになるので、意味合いが希薄になってくる。そういう理由で理念はビジョンの中に溶け込ませてしまっ、ビジョン、理念、基本方向の分け方にしないほうが良いのではないか。例えば、自治基本条例の中にも一定理念を書くならば、そこに書いたらどうかという話である。また、まちづくりの理念というのは、ビジョンや基本方向をまとめるものとして必要という意見もでてきている。

議論はプロジェクト会議の提案の中で、まちの姿勢であるので理念は大事だし挙げたらどうかという提案があった。草津では第4次総合計画でいうとパートナーシップで築く～というのがあったがこれを理念に格上げするというイメージ。策定委員会や審議会の議論の中でも、理論とビジョンがわかりにくいとか、本当にこの3つで足りるのか等まちづくりの三つの基本姿勢を半年1年で議論するのは厳しいという意見があった。

理念とビジョンの整理をしなければいけない。

・市民が見て、パッと分かる、職員が利用しやすいようにしなければいけない。コンパクトな表現で出てきたら良い。いろいろ分けると意味合いが希薄になってくる。

人口フレームについて

・推計人口を135,400人から400を削ったが、端数整理しただけではダメ。削る意味がないといけない。

・今後、自然的に見込んだ数値をフレームにしている。まちづくりの戦略がない。

→人口フレームとして13万人と設定するという事は、今後の施策を決めるということ。現在の施策の枠組みはそれまでということ。
市民アンケートでも、今の人口規模でまちを住みやすくしてほしいということがあった。
策定委員会では人口抑制派が多かった。

以上